

Japanese Utility Model Registration No. S55-166752

The present utility model relates to a fastener of a bag made up of an outer casing having a substantially Q-shaped cross section and an inner casing insertable into the
5 outer casing, wherein an appropriate number of protrusions are provided on an inner circumferential surface of the outer casing and a flat portion is formed at a position opposite to the opening of the outer casing.



実用新案登録願

昭和54年5月18日

特許庁長官 殿 谷 善 二

1. 考案の名称 フリガナ 加 木 テイ ク
袋 の 繫 紐 具

2. 考 案 者 シトクシヨウ
フリガナ 東京都港区南青山4-1-1-502
住 所 シトクシヨウ
フリガナ 有限会社バーナード商会内
氏 名 マル イマ 正 夫
丸 山 雪 夫

3. 実用新案登録出願人 シトクシヨウ
フリガナ 東京都港区南青山4-1-1-502
住 所 シトクシヨウ
フリガナ 有限会社バーナード商会
氏 名 (名称) マル イマ 正 夫
代表者 丸 山 雪 夫
(国 籍)

4. 代 理 人 干

住 所 東京都港区南青山4-1-1-502
氏 名 (5779) 弁理士 小橋 一男 (外1名)

5. 添付書類の目録

- (1) 明 細 書 1通
- (2) 図 新 案 1通
- (3) 願 書 副 本 1通
- (4) 委 任 状 1通
- (5) 出願審査請求書 1通

特許庁
54.5.18
出願第三

54 065656

166752

明 細 書

1 考案の名称

袋の緊締具

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 断面略Ω字形状の外筒(6)と、該外筒(6)内に挿入可能な内筒(7)とからなる袋の緊締具において、該外筒(6)の内周面上に隆起部(6b)を適数個設けるとともに、該外筒(6)の開口部(6a)の対向位置に扁平部(6c)を形成してなる袋の緊締具。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、袋の口部又は中間部等任意の位置に装着されることにより袋の対向面同志を部分的に密着状態とし、もつて袋口の密封又は袋内の分割を行なう袋の緊締具に関するものである。

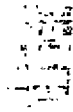
従来、第1図に示す如く、軟質塩化ビニル等の軟質合成樹脂製の袋2内左右に寒剤3と水4とを分包し、緊急時に寒剤3と水4とを混合せしめて冷却効果を発揮させる緊急用冷却袋1が使用されている。分包を行なうものとして、断面略Ω字形

第2図

状の外筒6と該外筒6内に袋2を挟込んで挿入される内筒7とからなる緊締具5を使用するものがあつた。しかし、この保を従来の緊締具5は緊締力が弱く外筒と内筒との面接触に依存する為袋の対向面同志を完全に密着状態に保持することができないという欠点があり、その為、保存中しだいに上記袋2内の水4が寒剤3の方へ漏洩して混合し、冷却袋の緊急時の使用が不可能となる問題があつた。

本考案の目的とするところは上記欠点を除去し、袋内の完全な分包及び袋口の完全な密封の可能な袋の緊締具を提供せんとするにあり、その特徴とするところは、上記外筒の内周面上に袋の肉厚内に喰込むような隆起部を連続曲設けるとともに、該外筒の開口部に対向した位置で、該外筒の開口部両端の拡開に対する抵抗を増加させる扁平部を設けた点にある。

以下図面に即して本考案実施の1例を説明する。第2図に示す如く、本考案緊締具5は外筒6と該外筒6内に挿入可能な内筒7とからなり、外筒6



は長手方向に沿つて開口部 6 a が切設され断面が略 Ω 字形状の筒で、袋 2 の幅以上の長さを有し、若干弾性を有する合成樹脂等で一体形成され、内筒 7 は外筒 6 内に袋 2 を挟込んで挿入される為、該外筒 6 の内径よりも若干小さな外径をもつて該外筒 6 と略同一長さの円柱形状に形成されている。又、外筒 6 の内周面上には隆起部 6 b が長手方向に伸長して適数個設けられ、該外筒 6 の開口部 6 a の対向位置には全長に渡つて扁平部 6 c が形成されている。

しかして、袋 2 に上記構成の緊締具 5 を装着するには、第 3 図に示す如く、袋 2 の表面に外筒 6 の開口部 6 a を当て、袋 2 の反対側に内筒 7 を当てて、該外筒 6 の開口部 6 a から該外筒 6 内に内筒 7 を袋 2 を挟み込むようにして押し込めば良い。この際、開口部 6 a 両側のフランジ部 6 d は内筒 7 の押込みを案内し、容易にする。第 4 図に示す如く、内筒 7 が外筒 6 内に挿入されると、外筒 6 の内周面と内筒 7 の外周面とが袋 2 を挟持する為、袋 2 の対向面同士が密着する。この際、外筒 6 の

隆起部 6 b は袋 2 の肉厚に喰込んで強固に密着し袋 2 の全周に渡り確実な線接触状態を保持せしめる。又、外筒 6 の扁平部 6 c は、該外筒 6 全体に開口部 6 a の拡張を阻止すべく作用し、もつて上記緊縮力を高めている。したがって、本考案緊縮具 5 による袋 2 の分包は完全に行なわれ、従来例の如き水の涵洩による問題点を解消することが可能である。特に、本考案においては外筒 6 と内筒 7 間に隆起部 6 b により積極的に幾つかの線接触による密着状態とするものであるから、例えば振りを受けたとしても線接触による密着状態が保持され適切な分包機能を維持可能である。又、外筒 6 の扁平部 6 c は部分的肉厚部を構成して外筒 6 の開口部両端による拡張に対する阻止力を強めている。

次に、袋 2 から緊縮具 5 を取外すには、袋 2 の左右を強く反対方向に引張れば、当該袋 2 の張力により外筒 6 内の内筒 7 が開口部 6 a から排出される（第 4 図中点線矢印参照）。

以上説明する如く本考案緊縮具は袋の対向面同志を適数箇の線接触状態にて完全に密着させるこ

とができるので、袋口の密封及び袋内の分包を確実に実施可能であるとともに、取外しも簡単になし得るから、特に、緊急用冷却袋の分包を行なう緊縮具として使用するのに好適である。又、開封、密封を繰返す袋の口の緊縮具として使用可能なことも勿論である。更に本考案緊縮具は構造簡単で大量生産に適し安価に市場に提供可能である。

尚、外筒の隆起部の形状は、第2図に示す如き断面半円形の直線状のもののみに限定されるものではなく、所望の形状を使用できることは勿論である。又、隆起部の数及び幅、高さは、隆起部の袋に対する噛込みと外筒の隆起部間による袋に対する面状の密着とが全体的に均等になされ得るように設定するものとする。更に、内筒は若干の弾性を呈する合成樹脂等により製すると良く、又、中空中実就れにても使用可能である。尚、隆起部は外筒ではなく内筒に設けても良く、更に、外筒内筒の両者に設けることも可能である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は従来例を示す斜視図、第2図～第4図

図 1

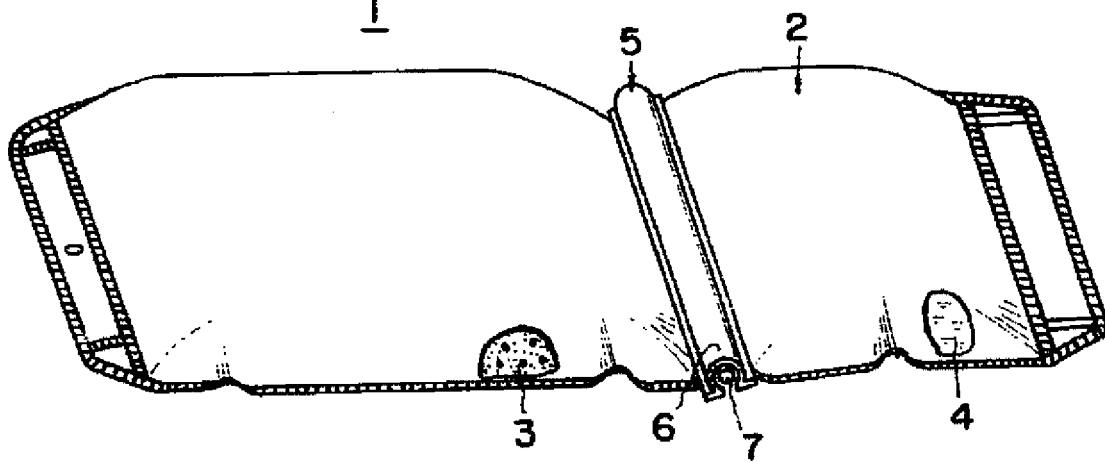


図 2

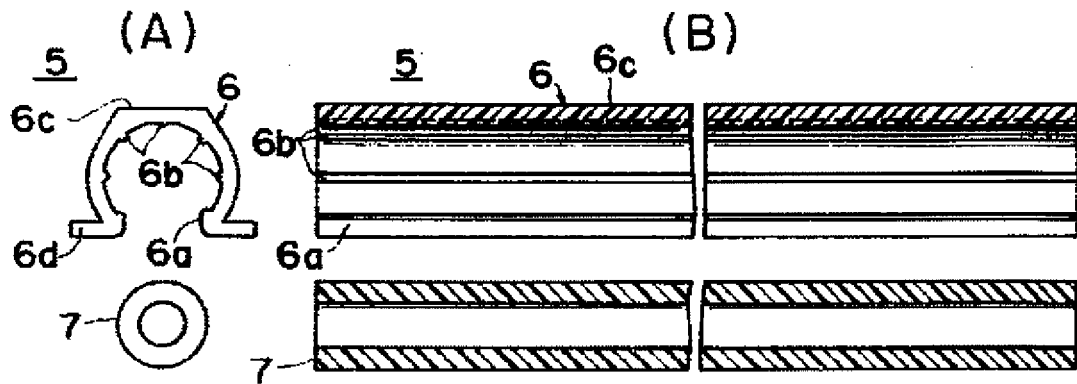


図 3

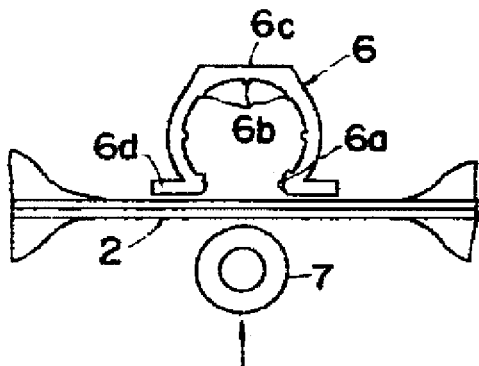
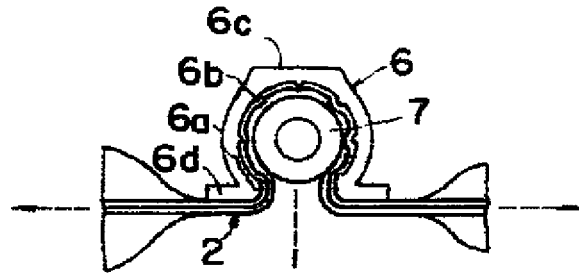


図 4



166752

実用新案登録出願人 有限会社バーナード商会

代理人 小橋 一 男

外 注

6. 前記以外の代理人

東京都大田区南雪谷1丁目3番2号(〒145)

(TEL) 03-5511-1111 正司 敬

166752